# 数理生物学演習

第8回 研究をはじめるために

第8回:研究をはじめるために

### 本日の目標

- 文献検索
- ・ 論文の構成
- 文献管理
- 文献の引用方法

### 文献検索

Google Scholar



http://scholar.google.com/

PubMed



https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/

Web of Science

Web of Science

http://www.webofknowledge.com/ https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/databases/redirect/259

CiNii



https://ci.nii.ac.jp/

など

他にもいろいろある、探したい文献のタイプにあわせて適切な検索エンジンを使おう.

### 文献管理ツールいろいろ

Mendeley



Papers

Papers

EndNote

**EndNote** 

RefWorks

RefWorks

BibDesk



など

## Mendeley

機関版が利用できる機関版が利用できるプライベートグループ数:無制限

- •メールアドレスは九州大学のアドレスでなくても良い
- 九州大学のキャンパス内ネットワークからMendeleyへ ログインすると自動的に九州大学の機関版へとアップグ レードされる
- 機関版の有効期間は九州大学のキャンパス内ネットワークからMendeleyへ最後にログインしてから12ヶ月間

Mendeley | 九州大学附属図書館 https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/databases/mendeley

### 論文の構成

- Title:論文の題名(大体40words以下)
- Abstract 要旨:論文の要約(大体400words以下)
- Introduction 序論:論文の意義づけ、主張、新規性、重要性、必要性、
- Materials & Methods 方法: どうやってResultsを得た か? (なぜResultsが信頼できる?)
- Results 結果:論文のメッセージを支える事実
- Discussion 議論:主張,論文のメッセージ。なぜResults から論文のメッセージを主張できるか?
- References 引用文献: 引用文献のリスト

この形式をIMRAD (Introduction, Methods, Results and Discussion) という. 基本はIMRAD形式だが、分野や雑誌によってスタイルが異なる.

## 他のスタイルの例(1)



Title

**Abstract** 

Introduction

Materials & Methods

Results

Discussion

References

Chitwood, D. H., Klein, L. L., O'Hanlon, R., Chacko, S., Greg, M., Kitchen, C., et al. (2016). Latent developmental and evolutionary shapes embedded within the grapevine leaf. The New Phytologist, 210(1), 343-355.

Imitation, Genetic Lineages, and Time Influenced the Morphological Evolution of the Violin



Daniel H. Chitw

Title

Abstract

Introduction

**Results and Discussion** 

Conclusion

Materials & Methods

References

Chitwood, D. H. (2014). Imitation, Genetic Lineages, and Time Influenced the Morphological Evolution of the Violin. PLoS ONE, 9(10), e109229.

雑誌によってスタイルが異なる

## 他のスタイルの例(2)

OPLOS ON

Imitation, Genetic Lineages, and Time Influenced the Morphological Evolution of the Violin



Daniel H. Chitwood

Title

**Abstract** 

Introduction

**Results and Discussion** 

Conclusion

Materials & Methods

References

Chitwood, D. H. (2014). Imitation, Genetic Lineages, and Time Influenced the Morphological Evolution of the Violin. PLoS ONE, 9(10), e109229.

PLOS ONE

Genomic Prediction of Biological Shape: Elliptic Fourier Analysis and Kernel Partial Least Squares (PLS) Regression Applied to Grain Shape Prediction in Rice (Oryza sativa L.)

Title

**Abstract** 

Introduction

Materials & Methods

Results

Discussion

Conclusion

References

Iwata, H., Ebana, K., Uga, Y., & Hayashi, T. (2015). Genomic Prediction of Biological Shape: Elliptic Fourier Analysis and Kernel Partial Least Squares (PLS) Regression Applied to Grain Shape Prediction in Rice (Oryza sativa L.). PLoS ONE, 10(3), e0120610.

同じ雑誌でも記事毎にスタイルが異なる場合もある

## 他のスタイルの例(3)

DeepLab: Semantic Image Segmentation with Deep Convolutional Nets, Atrous Convolution, and Fully Connected CRFs

Liang-Chieh Chen, George Papandreou, *Senior Member, IEEE*, Iasonas Kokkinos, *Membar, IEEE* Kevin Murphy, and Alan L. Yuille, *Fellow, IEEE* 

Title

**Abstract** 

Introduction

**Related Work** 

Methods

**Experimental Results** 

Conclusion

References

Chen, L. C., Papandreou, G., Kokkinos, I., Murphy, K., & Yuille, A. L. (2018). DeepLab: Semantic Image Segmentation with Deep Convolutional Nets, Atrous Convolution, and Fully Connected CRFs. IEEE Transactions on Pattern Analysis and Machine Intelligence, 40(4), 834–848. SegNet: A Deep Convolutional Encoder-Decoder Architecture for Scene Segmentation

Vijay Badrinarayanan, Alex Kendall, Roberto Cipolla, Senior Member, IEEE,

Title

Abstract

Introduction

Literature Review

**Architecture** 

Benchmarking

**Discussion and Future Work** 

Conclusion

References

Badrinarayanan, V., Kendall, A., & Cipolla, R. (2017). SegNet: A Deep Convolutional Encoder-Decoder Architecture for Image Segmentation. IEEE Transactions on Pattern Analysis and Machine Intelligence, 39(12), 2481–2495.

分野によってスタイルが異なる

とはいえ、基本はIMRAD形式。 スタイルが異なっていても要素は一緒。 (専門用語や英文法の詳細よりは)論文の 論理構造を捉えることに注力しよう。

### 引用

- 他者の著作の一部を自身の著作の一部として紹介・提示すること。
- 論文においては、他者の主張や結果などを自身の論文中で紹介する場合やそれを自身の主張の論拠する場合に他の文献を引用する。
- 引用する場合には出典を明記する必要がある.

#### 例.

Hammer and Bucher (2005) defined the growth vector as a measure of shell growth per arbitrary time step, which may be standardized by "size".

The aperture map (AM), proposed by Rice (1998), provides the norm (or magnitude) of the growth vector at each location of the GVM.

#### References

- Hammer, Ø., Bucher, H., 2005. Models for the morphogenesis of the molluscan shell. *Lethaia* **38**, 111–122.
- Rice, S.H., 1998. The bio-geometry of mollusc shells. *Paleobiology* **24**, 133–149.

Noshita (2016)

## 引用の方法(1)

- 直接引用: オリジナルの文章をそのまま(一字一句変えずに) 引用すること、引用符などで本文と区別する必要がある。
- 間接引用:オリジナルの内容を要約や言い換えて引用すること。

#### 直接引用の例

Rice (1998) pointed out that "the aperture map (the relative rates of shell production) stays the same through this uncoiling process, even if the total amount of shell produced decreases" and that "this strategy only works to a point, though, after which further uncoiling requires a change in the shape of the aperture map".

#### 間接引用の例

Hammer and Bucher (2005) defined the growth vector as shell growth rate. It may be standardized by "size".

Noshita (2016)

## 引用の方法(2)

#### (著者が3名以上の場合には) et al. で略することもある

Here, we adopt the terminologies used by Urdy et al. (2010).

Noshita (2016)

et al. はラテン語 et alii (and others) の略.

#### 文中での引用形式も様々で、番号で示す場合もある

理論形態学が創始される契機となった Raup のモデル(Raup's model)を見てみよう [1-4]

野下 (2017)

実際に文献を探して・読んでみよう!

### 文献の探し方

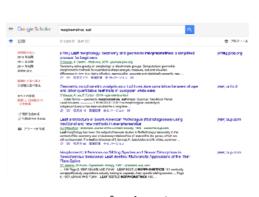
- 検索エンジン:最初の一歩
  - Google Scholar
  - Web of Science など
- 参考文献:より具体的な文献へのアクセス
- 定期:興味ある雑誌や会議をチェック
  - 定期購読
  - ・RSS など
- SNS:狙い撃ち、研究者をフィルター化
  - Mendeley
  - Twitter など
- その他

時代によって文献の探し方も変わっていく、自分なりの方法を考えアップデートしていこう、

## Google Scholar



興味のあるキーワードを2, 3個入力して検索



いっぱい出てくる



面白そうなのを見つける
or

条件を追加して絞る
追加キーワード
年代 など

### 論文にアクセスできない₩

#### 大学が契約していない論文は読めない

- オプション 1. 有料で購入する
- オプション2. 著者に連絡して別刷りをもらう
- オプション3. プレプリントを手に入れる

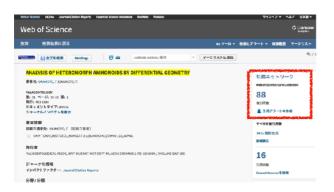
今回の演習ではとりあえず諦めて別論文をダウンロードでOK. もちろん、著者に連絡を取り別刷りをリクエストしても良い.

### Web of Science



興味のあるキーワードを2,3個入力して検索

### 被引用文献リスト



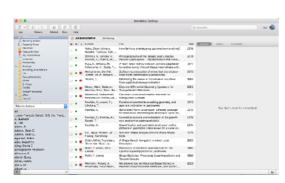
選択した論文が"引用されている(被引用)論文"のリストを 調べることが可能





## Mendeleyへの取り込み

#### ドラッグ&ドロップ



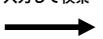




#### IDによる書誌情報の取得



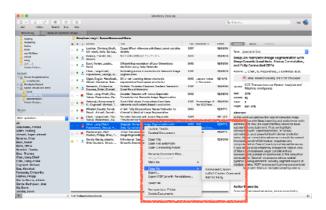
Catalog IDsの いずれかにIDを 入力して検索

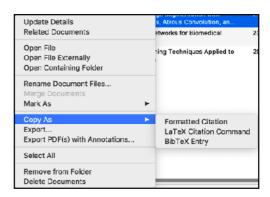


Catalog IDs		
ArXiv ID:	1606.00915	P
DOI:	10.1109/TPAMI.2017.2699184	P
ISBN:	0162-8828 VO - PP	
ISSN:	01628828	
PMID:	28463186	P

## Mendeleyから書誌情報の取得

文献を選択して、「Copy As」







**例えば、「Formatted Citation」をクリックすると、** 書誌情報を特定のフォーマットでコピーできる

Chen, L. C., Papandreou, G., Kokkinos, I., Murphy, K., & Yuille, A. L. (2018). DeepLab: Semantic Image Segmentation with Deep Convolutional Nets, Atrous Convolution, and Fully Connected CRFs. IEEE Transactions on Pattern Analysis and Machine Intelligence, 40(4), 834–848. https://doi.org/10.1109/TPAMI.2017.2699184

## Mendeleyの様々な機能

- クラウド同期
- Wordプラグイン
- •雑誌にあわせた引用スタイル
- 文献の共有(プライベートグループ)

など

解説スライドとクイックレファレンスガイド https://www.elsevier.com/ja-jp/solutions/mendeley/mendeley-guide

### 本日の課題

- 1. Google ScholarもしくはWeb of Scienceを用いて、興味ある論文を1本探し、読む、その後、配布したテンプレートに従い内容を1枚にまとめよ。
- ハード 2. 1で読んだ論文が引用している論文の中から興味ある論文 を1本探し、読む、その後、配布したテンプレートに従い 内容を1枚にまとめよ.
  - 3. 中間発表のチーム名及びチームメンバを書け
  - 4. 質問, 意見, 要望等をどうぞ.

課題をPDFファイルにまとめて、Moodleにて提出すること

# 最終課題

- 数理生物学的なテーマを設定し
- 計算機を使ったアプローチで取り組み
- レポートにまとめる

ノーマルとハードのいずれかを選択

### ノーマル

- IMRAD形式でレポートにまとめる
  - イントロダクション:論文を<u>2本以上</u>引用し、取り組むテーマについて説明する
  - ・マテリアル&メソッド:イントロダクションを踏まえ、レポート内で実施する解析・シミュレーションを説明する。参考にした文献について適宜引用する。
  - 結果:解析・シミュレーションの結果をまとめる。
  - 議論: 結果を解釈し、先行研究と比較して考察する。
  - 参考文献: 少なくとも3本以上
  - 適宜、図表を用いる.
- 参考文献として読んだ論文から<u>1本以上</u>を選び、テンプレートに従い まとめる

### ハード

- IMRAD形式でレポートにまとめる
  - ・イントロダクション:論文を4本以上引用し、取り組むテーマについて説明する
  - マテリアル&メソッド:イントロダクションを踏まえ、レポート内で実施する解析・シミュレーションを説明する。参考にした文献について適宜引用する。
  - 結果:解析・シミュレーションの結果をまとめる.
  - 議論:結果を解釈し、先行研究と比較して考察する。
  - 参考文献: 少なくとも<u>6本以上</u>
  - 適宜、図表を用いる。
- 参考文献として読んだ論文から3本以上を選び、それぞれテンプレートに従いまとめる

# 中間発表

第10回に実施

- 1~6名でチームを組んで取り組む
- ・メンバーの一人の内容について 最終課題への取り組み方の紹介・説明
- スライド5ページにまとめて, 5分以内でプレゼン
- スライドの1ページ目はタイトルとチーム名及び メンバーの一覧必須

#### 第10回の課題(予定)

- 1.中間発表に使用したスライド pdf化して、他の内容と一緒に提出
- 2.他の発表者の内容についてのコメント それぞれの発表について、発表者のチーム名とそれに対する意見、質問などを記入.

3.質問, 意見, 要望等.

# 次回予告

第9回:人工生命

6月17日

復習推奨

NumPyの使い方

### 今後の予定

- •6月17日 第9回 人工生命
- •6月24日 第10回 中間発表
- •7月1日 第11回 パターン形成
- •7月16日 第12回 ニューラルネットワーク
- 7月22日 第13回 (高木)
- 7月29日 第14回 数理生物学でのプログラミング
  - → アンケートがあるので出席してください
- •8月16日? 最終課題提出期限

## 宣伝

数理生物学 第9回 かたちの数理モデル(3) 6月12日(水)

### 内容

- 植物フェノタイピング
  - 計測
  - 画像解析
  - モデリング